

平成21年度 シラバス	学年・期間・区分	4年次・後期・B群
	対象学科・専攻	機械・電気電子・電子制御・情報・土木工学科
社会概説 (日本国憲法) Introduction to Social Study (The Constitution of Japan)	担当教員	松田忠大 (MATSUDA, Tadahiro)
	教員室	一般科目棟3階
	E-Mail	t_matuda@kagoshima-ct.ac.jp
教育形態 / 単位の種別 / 単位数	講義・演習 / 学修単位[講義] / 2単位	
週あたりの学習時間と回数	〔授業(100分) + 自学自習(200分)〕 × 18回	
〔本科目の目標〕 日本国憲法は日本における最高法規であり、これによって基本的な社会秩序は形成されている。また、日本国憲法は近代憲法として、保護されるべき国民の諸権利を規定し、国家権力がこれを侵害しないような仕組みをも定めている。3年次に履修した「政治経済」において日本国憲法の概要は取り扱うが、本科目では、憲法解釈に関して特に重要なテーマを厳選し、日本国憲法に関する基礎的知識を身に付けるとともに、現代における人権問題を中心とした、憲法をめぐる諸問題を考え、現代における憲法解釈、さらには、将来、来るべき憲法改正に際して、自分の考えを持つことのできる能力を養うことを目標とする。		
〔本科目の位置付け〕 3年次に履修した「政治経済」(編入学生については、高等学校で履修した「政治経済」または「現代社会」)における日本国憲法に関する基礎知識が必要である。また、4年次前期開講科目の「社会概説 (現代史)」に関する知識も必要となることから、受講者は、前期において同科目を履修しておくことが望ましい。		
〔学習上の留意点〕 講義内容をよく理解するために、毎回、教科書等を参考に50分程度の予習をしておくこと。また、講義終了後は、復習として50分以上、演習問題等の課題に取り組むこと。疑問点があれば、その都度質問すること		
〔授業の内容〕		
授 業 項 目	時限数	授 業 項 目 に 対 す る 達 成 目 標
1. 憲法と立憲主義	2	形式的意味の憲法と実質的意味の憲法、立憲主義の意義、憲法の最高法規性、法の支配の原理を理解することができる。
2. 国民主権原理	2	国民主権の意義を理解し、象徴天皇制における天皇の権能を理解できる。
3. 平和主義	2	憲法9条の解釈を通して、わが国の平和主義、自衛権と戦力不保持の関係を理解することができる。
4. 基本的人権の原理	4	人権の性質を理解し、人権享有主体について理解することができる。
6. 基本的人権の限界	2	人権制約原理に関する学説の検討を通し、「公共の福祉」の意義を理解することができる。
7. 包括的基本権	2	憲法13条の意義を理解し、新しい人権に関する諸問題について考えることができる。
8. 法の下での平等	2	判例の検討を通して、法の下での平等の意義を理解することができる。
9. 精神的自由権	6	判例の検討を通して、精神的自由権の意義を理解することができる。
12. 経済的自由権	2	判例の検討を通して、経済的自由権の意義を理解することができる。
13. 人身の自由と国務請求権	2	人身の自由および国務請求権の意義を理解することができる。
14. 社会権	2	判例の検討を通して、社会権の意義を理解することができる。
15. 国会と内閣	2	国会及び内閣の地位、権能を理解することができる。
16. 裁判所	2	司法権の概念、司法権の限界および司法権の独立の意義を理解することができる。
17. 憲法の保障	2	違憲審査制の根拠、性格、硬性憲法の意義と改正の限界を理解できる。
--- 後期期末試験 ---	2	授業項目1～17について達成度を確認する。
試験答案の返却・解説		試験で間違った部分を理解できる。
〔教科書〕 野中俊彦・江橋崇編著「憲法判例集(第10版)」有斐閣		
〔参考書・補助教材〕 芦部信喜「憲法 第四版」岩波書店		
〔成績評価の基準〕 定期試験(70%) + レポート点(30%)		
〔本科(準学士課程)の学習教育目標との関連〕 1-a, 4-b		
〔教育プログラムの学習・教育目標との関連〕 1-1, 4-1		
〔JABEEとの関連〕 (a), (b)		